

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600657		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・新中野 はすかつぶ館		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	令和 5年 2月 28日	評価結果市町村受理日	令和 5年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600657-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600657-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年3月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員の会話も多く、「笑顔の絶えない明るく家庭的なホーム」作りを心掛けている。季節ごとの行事、近隣公園への散歩、買い物、外食、利用者様の希望に添った支援ができるよう、ご家族様、地域の方々の協力を頂き毎日元気に笑顔のある生活を送ることができるよう努力している。運営推進会議は、コロナ禍で開催できていないが、面会時や電話連絡した際にご家族様等の意見を聞くよう努めている。現在は、新型コロナウィルス蔓延防止のため外部の協力を得れない状況だが、月2回の調理レクやおやつレクにて、入居者様と共に調理し入居者様の力を発揮して頂いている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームグッド・ケア新中野は苫小牧市役所や各行政機関に隣接し、国道36号線沿いの住宅街にある。近隣に大型商業施設や飲食店、医療機関等がある、2階建て2ユニットの事業所である。令和3年度末までは小規模多機能事業所が併設されていたが現在は事業所での運動会場や来客対応場所として利用している。家族から要望の多い面会は事務室と玄関とのガラス越しの対面で行っている。コロナ禍緩和時はドライブを兼ねての神社詣りや海、緑が丘公園に出掛け、港祭りは車窓から見物している。春は手作り弁当を持参してサンガーデンへ出かけるなど、理念に掲げたその人らしい楽しみのある生活を送る事を支援している。町内会交流は制限の中、子供神輿の来訪やクリーン運動に利用者と一緒に参加したり、地域住民が施設利用者を知らせてくれるなどの交流がある。古紙回収活動は定期的に地域の一員として行っている。職員は毎月の内部研修や外部研修に参加し終末期の声かけには、利用者の発言を大切にすることを心がけ言葉の意味や思いに寄り添うケアに努めている。また、行政主催の外部研修から学んだ内容を基に、介護計画書の書式を事業所独自の様式に令和5年1月から変更し、運営に生かしている。運営推進会議報告書は入居者の状況、活動状況、事故・ヒヤリハット等を詳細に記載し家族へ手紙と共に届けている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・リビングに掲示し、常に意識できる環境に努め、サービスの向上に努めている。	職員全員で作成した理念は1年経過し、申し送り時や事故防止委員会で話し合い、共用空間に掲示して、ケアにつなげている。理念は運営推進会議議事録に記載し、家族や地域代表とも共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、防災訓練などに協力して頂いたり、お祭り時の子供みこし見学の協力を得られている。	幼稚園児との交流や市の広報誌配付は自粛しているが、定期的な廃品回収や町内クリーン運動は利用者、職員が参加し交流を継続している。祭りの子供神輿が町内会行事として来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後実施していく予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて開催しておらず、紙面のみでお知らせしている。	運営推進会議は定期的に書面会議で行っている。空室状況や活動状況、事故・ヒヤリハットの対策を含めて詳細に記載している。会議議事録は市介護保険福祉課、地域包括支援センター、町内会や家族に届けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活支援課の担当者とは月に1度、介護福祉課の担当者とは、不明なことなど都度確認し関係性を築けるよう努力している。	生活保護課、介護福祉課とは毎月窓口での相談や事故報告、運営推進会議議事録を届けるなど、事業所の取り組みを伝えている。コロナ感染症の際には市からの情報や保健所から感染対策支給品の提供を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵を開錠している。また、個々の状況に応じ安全に生活できる環境づくりを行い、見守り強化する事により危険防止に努め身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を年4回開催している。「身体拘束、虐待について」「離設時の対応」「不適切なケア」など資料を基に研修を重ね、具体的な事例と問題点を職員間で話し合い理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、会議の場でも意見交換、情報の共有を図ることで虐待を見逃すことが無いよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、必要な入居者様には活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に理解、納得を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて要望を確認したり、面会や電話にて要望を聞く機会を設け、連絡ノートや会議で情報の共有を図り反映できるよう努めている。	家族の要望となっていた面会は、事務室と玄関との仕切ガラス越しで対面による面会を行っている。利用者の要望・意見は連絡ノートに記録して職員間で共有し、積極的に把握している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用や全体会議で意見や提案を聴き、反映できるようにし、本社には会議の議事録を送り意見を聞いてもらえるようにしている。	管理者は、申し送り時や日常支援の中で意見や提案を把握している。職員は防災、身体拘束廃止、事故防止の各委員会に所属し、毎月の内部研修実施や市主催の外部研修に参加して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給や特別処遇改善加算等の取得にて賃金改善に充てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加に取り組み、職員の要望に合った研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会の研修などに参加し、交流を図ったり、情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様から得た情報を元に生活歴の把握に努め入居者様の要望をケアに反映できるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始まで、ご家族様と密に連絡を取り、不安な事や要望を聴き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様の状況把握に努め意向を確認しながら適切な支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のユニット会議にて、入居者様の心情などを確認し合い、できる事・出来ない事の見極めを行い支援の方法を検討している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話・通信の発行でホームの様子をお伝えし、ともに支え合う関係づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に面会できるようご家族様にも協力して頂きながら、支援に努めている。	面会は家族のみの状況となっているが、馴染みの理容室へ行く支援をしている。馴染みの場所の神社詣でや海、緑が丘公園へドライブを兼ねて出かけている。港祭りは会場を車で回り車窓から見物し、花火は事業所の庭で楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極め、孤立しないよう配慮し、時には職員が介入し支え合えるような支援を行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談などに応じれることをお伝えしたり、ご本人様の状況をお聞きするなどの支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の言葉を大切に、思いを聞き入れ会議で情報の共有を行い、「本人本位」になるよう検討している	思いや意向を表出する利用者が多く、知り得た情報は連絡ノートに記録し会議等で共有している。困難な要望には話しかけや寄り添いながら本人本位に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様より情報を収集したり、普段の関わりの中で得た情報の共有を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のできる事や難しくなってきたこと、支援があればできる事を職員間で情報の共有を行い、現状に適したケアを行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・他職員・看護師より意見を出してもらい、毎月話し合い、介護計画を検討している。また、ご家族様からも要望をお聞きし反映できるよう努めている。	今年度1月から書式を変更した情報整理シートは、アセスメント、モニタリング、利用者、家族の希望を記録し、利用者の視点にたつて必要な支援となる具体的な記載である。介護計画は短期6か月、長期1年で作成している。状況変化時は都度見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートにて日々の情報の共有を行い現状の把握に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ、柔軟な支援が取り組めるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の活用が難しい状況ではあるが、平常時にはボランティアなどに来て頂き楽しんで頂けるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の希望をお聞きし、協力病院への往診へ切り替えたり、かかりつけ医にいつでも行けるよう支援し、適切な医療が受けられるよう支援している	入居後、協力医への移行はあるが利用者や家族が希望するかかりつけ医の継続受診の支援をしている。月2回、協力医の往診や常勤看護師による適切な医療体制となっている。受診記録等は職員全員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師を配置し、入居者様の健康管理や、医療面での相談、助言を行っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご、病院側と連携を取り情報交換、相談を行い、信頼関係が築けるようにしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様より同意を得ている。終末期には、最後まで家庭らしい環境で過ごして頂けるように取り組んでいる。	重度化対応指針とは別に、終末期生活支援に関する覚書を作成して同意を得ている。看取りの際、以前は家族も居室で宿泊をしていたが、コロナ禍では感染対策を講じて訪問し、職員と共に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを整備し、研修を行い周知している。訓練も実際に行い実践を身に付けられるよう取り組んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防に協力して頂き合同訓練を行っている。又、ホーム単独でも避難訓練を行い全職員が身につけられるよう取り組んでいる。	令和4年度は、8月に地震による火災想定避難訓練、夜間想定は令和5年3月に実施している。防災委員会では毎月の会議や自主訓練を行い、避難方法を身につけられるよう取り組んでいる。業務継続計画は職員も研修を受け、策定に参画し法人本部で進めている。	自然災害対策を法人や自治体と連携し、コロナ禍緩和時は地域との協力体制を築くなど、また、防災委員会は家族に向けて避難場所など詳細な情報を周知する活動に期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの声掛けの方法など職員間で共有し、人格の尊重、プライバシーへの配慮を心掛けている	「プライバシーに配慮した声かけを行う」を目標に日常のケアで人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいに留意している。個人情報事は事務所内で適切に管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が答えやすい、選択できるような声掛けを働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、その日の気分や体調に配慮しながら、希望に沿った過ごし方ができるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容に来てもらったり、洋服を選んで頂く等の支援を行っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭きやお盆拭きを職員と共に行ったり、お膳の配下膳を自身で行って頂く等している。	行事担当者を中心に、月2回実施の昼食レクリエーションの献立や行事食は好みを聞き利用者が味見をしながら一緒に料理している。敬老会、正月は特別メニューで、春は手作り弁当を持ってサンガーデンへ行くなど楽しい食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、個別の必要水分量の把握を行っており確保できるよう工夫している。好みに応じた食材や飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けを行い、ご本人様の状況に応じた支援を行い口腔内の衛生に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を一番に考え、排泄パターンの把握に努め、必要な支援を行っている。	生活記録の排泄チェック表を基に、リズムを把握し、仕草やタイミングで誘導してトイレ排泄が出来るよう支援している。夜間は衛生用品使用や歩行不安定な利用者にはポータブルトイレの使用で不安軽減や転倒防止など、利用者に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫をし、又マッサージや運動を行い、個別に応じた便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴されていない期間の把握を行ったり、希望に応じ入浴が出来るよう支援している。	入浴は週2回を基本に、利用者の希望に応じた時間帯で支援している。入浴剤を入れたり、湯船に浸かる支援の他に体調により入浴が困難な利用者には、シャワー浴や足浴、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じ、適宜休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援記録ファイル内に処方箋を綴り、すぐに確認できるようにし、内服時は2人で声出し確認を行い、ご本人様にも確認して頂き誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や楽しみごとを把握し、楽しい時間を過ごせるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って買い物や散歩に出かけているが、今年度はコロナの影響で散歩のみとなっている。	コロナ禍緩和時は神社詣でや海、緑が丘公園、植物園へドライブを兼ねて外出をしている。港祭りは車で会場を回り、車窓からの祭り見物や利用者の希望により定期的に馴染みの理容室へ出かける支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様とご家族様で話し合い、数名は自分でお金を少額管理されているが、基本買い物時は職員が見守り支払いを行ってもらよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、いつでも電話が出来るよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節を感じれる装飾品を飾り、温度計で毎日室温を確認し居心地の良い空間が作れるよう工夫している。	リビングは駐車場や花壇に面していて、大きな窓からは日差しが入り明るい共用空間である。四季を感じられるよう季節の飾り付けの工夫がなされ、温度、湿度についても適正に管理され、居心地の良い空間づくりとなっている。利用者はソファで新聞を読んだり、唄ったり、思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置に配慮したり、気の合った入居者様同士と一緒に過ごせれる環境づくりに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などは使い慣れたものを持参して頂けるようご家族様と相談し、ご本人様が安心して過ごせれるよう工夫している	居室内はクローゼットや24時間換気システム、パネルヒーターが設置されている。馴染みのテーブル、椅子、タンスや趣味の盆栽を持ち込み、塗り絵や写真等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には解るよう目印をつけたり、エレベーターや廊下には手すりを設置し安全に自身で移動できるよう工夫している。		